

上杉文華館 目録
2022年9月29日（木）～10月25日（火）
関東管領上杉氏⑦～応永の乱

資料名	員数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製 上杉本 洛中洛外図屏風 (～10/21)	六曲一双	各178. 1×383. 2	原本 室町～桃山 (16世紀)	狩野永徳	上杉博物館
国宝 上杉本 洛中洛外図屏風 (10/22～)	六曲一双	各178. 1×383. 2	原本 室町～桃山 (16世紀)	狩野永徳	上杉博物館
国宝 上杉家文書 足利義満御内書	一通	1 2.1×1 9.1	(応永6年・1399) 12月2日		上杉博物館 文7 2 4
国宝 上杉家文書 足利義満御内書	一通	3 2.0×4 6.2	(応永6年・1399) 12月29日		上杉博物館 文7 2 3
国宝 上杉家文書 足利義満御内書	一通	3 1.7×4 5.6	(応永7年・1400) 正月18日		上杉博物館 文7 2 2
国宝 上杉家文書 足利義満御判御教書	一通	3 4.8×5 5.3	応永8年 (1401) 6月26日		上杉博物館 文7 1 4

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り返しました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第7回目は、「応永の乱」をテーマとして関連文書を紹介します。応永の乱とは、応永6年（1399）11月、中国地方に勢力を誇った守護大名大内義弘が、室町幕府に起こした反乱です。幕府のトップ足利義満は義弘を討ち、大内氏の勢力を大きく削減しました。この時、義弘は鎌倉公方足利満兼と共謀していました。満兼は將軍になることを望んでいましたが、義弘の敗死によって野望は潰えました。このような事態に義満は上杉憲定に処理を求めました。これによって義満と山内上杉氏の関係がより深化したといわれます。そのような憲定の動きについて、国宝「上杉家文書」から紹介していきます。

10月21日（金）までは「国宝上杉本洛中洛外図屏風」（複製）を展示します。2000年制作の複製で、現状を複製したものです。

10月22日（土）からは「国宝上杉本洛中洛外図屏風」（原本）を展示します。11月20日（日）までです。